

# 東京バッハ合唱団 月報

[第524号] 2006年2月号 <Web版>

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel: 03-3290-5731 Fax: 03-3290-5732  
E-mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.524  
February 2006

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## バッハ・カンタータ 50 曲選 最後の定期演奏会

### ” 大地の糧のカンタータ ”

大村 恵美子

第99回定期演奏会は、本年5月13日(土)午後4時開演、石橋メモリアルホールと決まりました。詳細は以下のとおりです。

カンタータ第180番《装え心よ 罪の闇を去り》  
カンタータ第187番《待ち望む みななれを》  
カンタータ第194番《大いなるこの日 新たな宮を》

ソプラノ：光野孝子  
アルト：佐々木まり子  
テノール：平良栄一  
バリトン：佐伯雅巳  
管弦楽：東京カンタータ室内管弦楽団  
オルガン：草間美也子  
合唱：東京バッハ合唱団  
指揮：橋本眞行 (BWV180, BWV187) / 大村恵美子 (BWV194)

<カンタータ 50 曲選 の楽譜を使用しながら演奏し、その会場録音をCD選集の音源とする定期演奏会は、今回で完結します。

2000年5月の第87回定演から今回にいたるまで7年間で、全50曲のうちの28曲をとり上げ(表1参照)、残る22曲は、すでに1回または数回上演済みのものの中からCDの音源としました(表2参照)したがって、これらの22曲は50曲選として出版された楽譜をまだ使っていません。いずれ将来にわたって、折々にゆっくり定演にもとり上げてゆくつもりです。

今回の演奏曲目は、BWV 番号の若い順にとり上げてきたシリーズの最終の3曲として残ったものですが、作曲・初演年代からすれば、ライブツィヒ着任後間もない

1723-1726年のものばかりで、私たちの定期演奏会でもすでにとり上げて好評を得ています。

BWV180 (1724年初演) ... 第79回定演 (1996) にて上演  
BWV187 (1726年初演) ... 第83回定演 (1998) ”  
BWV194 (1723年初演) ... 第59回定演 (1985) ”

BWV180 は、神から発する愛の糧を共に味わう宴、その宴にあずかる喜び。

BWV187 は、地球上にあるすべて、大地、山、川、海、空、食物、衣服、住居、それら隔々にまでゆきわたる神の恵みへの感謝。

BWV194 は、地における神の家として献げられた教会に、われらの心が安住し、憩い、生涯の旅立ちの日までのくつろいだ幕屋となることを祈る。

期せずして、人間生活の衣・食・住のすべてをふりかえって、その正しい受けとり方に思いを致す内容の曲がそろいました。それらを破壊して人類も自滅してゆくような方向に立ち向かい、謙虚に、おのれも被造物の一員として共存共栄することを目指す。

教会カンタータとしての本来の用途は、BWV180 - 三位一体節後第20日曜日(マタイ22:1-14「王の婚宴の譬え」)、BWV187 - 同第7日曜日(マルコ8:1-9「7つのパンが4千人を満たす」)、BWV194 - 教会献堂式、という特定の機会に作られています。これら3曲をそろえ、危殆に瀕している現在の地球の状況を救うものとしてみると、私たちは、バッハの厳しくも温かい音楽によって、脱出路にいたる指標が、力強く示されているのを感じることができるのではないのでしょうか。FINE

表1) 50 曲選 の楽譜で演奏したカンタータ (計28曲)

第87回(2000) BWV56, BWV106, \*\*BWV156  
第88回(2000) BWV16  
第89回(2001) BWV29, \*BWV140  
第90回(2001) BWV36  
第92回(2002) BWV61  
第93回(2003) BWV 1, BWV26, BWV30, BWV47  
第94回(2003) BWV40  
第95回(2004) BWV77, BWV78, BWV93, BWV99  
第96回(2004) \*BWV72  
第97回(2005) \*\*BWV116, \*BWV129, \*BWV137, \*BWV147  
第98回(2005) \*\*BWV123, \*\*BWV192, \*\*BWV197  
第99回(2006) \*\*BWV180, \*\*BWV187, \*\*BWV194

BWV 番号の\*はCD第4期(本年3月末発行予定)、\*\*は第5期(2007年完結)

表2)過去の会場録音(太字)を音源とするカンタータ(計22曲)

BWV 4	第25,47, <b>53</b> 回	*BWV 71	第9,49, <b>62</b> 回
BWV 6	第4,33, <b>62</b> 回	BWV 76	第34, <b>65</b> 回
BWV 8	第12,26, <b>75</b> 回	BWV 80	第5, <b>53</b> 回
BWV 19	第 <b>83</b> 回	BWV 84	第1,12,36, <b>85</b> 回
BWV 21	第49, <b>81</b> 回	BWV104	第2,4,25, <b>75</b> 回
BWV 39	第2,7,20, <b>73</b> 回	**BWV110	第52, <b>82</b> 回
BWV 41	第 <b>84</b> 回	*BWV124	第42, <b>84</b> 回
BWV 42	第 <b>69</b> 回	*BWV131	第9,17, <b>45</b> 回
BWV 45	第 <b>83</b> 回	*BWV150	第45, <b>81</b> 回
BWV 63	第48, <b>74</b> 回	**BWV190	第68, <b>81</b> 回
*BWV 68	第15,25, <b>69</b> 回	**BWV196	第17,45, <b>73</b> 回

BWV 番号の\*はCD第4期(本年3月末発行予定)、\*\*は第5期(2007年完結)



齊藤繁儀さま（後援会員）

謹賀新年

先日はお元気な指揮で感激しました。

本郷弓町教会から四十余年バッハを聴かせていただき有難うございます。

花井鉄弥・友子さま（後援会員）

謹賀新年

何時も精神の集中した真摯な合唱をお聴かせいただき有難うございます。今回もアンコールを含め真に心を打たれました。会場も熱気あふれる満席で何よりと心強く思いました。本年も先生の御健康と益々の繁栄を祈念申し上げます。

光野孝子さま（顧問、声楽家・ソプラノ）

あけましておめでとうございます

先生の訳詞を通して、多くのバッハの作品と出会えたことを、とても幸せに思います。日本語で歌うバッハの良さを伝えられる様、もっともっと精進して参りたいと思います。今年もどうぞ宜しくお願い致します!!

## 新春ジョイントコンサート

2006年1月8日、海老名市文化会館小ホール

野尻湖コンサートなどでも共演していただき、私たちの親しい友人、小川好計（テノール）・小田幸子（ヴァイオリン）ご夫妻と、合唱団練習ピアニストの内山亜希さん、小田さんたちのお仲間の西川美知子さん（ピアノ）の4人によるコンサートが、新年早々に催された。

ヴァイオリンとピアノのための、シューベルトの《ソナチネ》第2番イ短調、とフランクの《ソナタ》イ長調を小田さんと西川さんが演奏し、それに小川さんのテノール独唱、内山さんのピアノ伴奏で、シューベルトと日本の歌曲を5曲ずつ。

お正月休みには、なにか普段よりも楽しいことに出会いたいが、生演奏のコンサート、それも、外来演奏家の高額な大公演などよりも、親しい音楽家の方々による室内楽的なもののほうが、温かく、しあわせな気分になる。ますます真剣で充実したアンサンブルを見て聴いて、音楽があたえてくれる人生の潤いを、しみじみと味わった。

年末年始に準備されるのは、さぞかし大変だったことと想像するが、聴衆は、お正月にもっともふさわしいプレゼントのように受けとって、新年の希望を胸にいただくことができたのである。今後もこのようなお正月のひとつときを過ごしたいものだった。



## 受難曲と美術作品

白木 博也（後援会員、画家）

今回は、一列に並んだレオナルド式ではなく、テーブルを囲んだ形を選びました。

この晩餐は、過越しの祝いの食事で、キリストが使徒12人の前で「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている」（マタイ 26：21）と述べた瞬間を描いている。聖書は 弟子たちは非常に心を痛めて、「主よ、まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた（同 26：22）と続きます。

Duccio di Buoninsegna (1255/60 ~ 1315/18)  
「最後の晩餐」 - マエスタ（玉座の聖母）より -  
シエナ・ドゥオーモ美術館（イタリア）  
Siena, Museo dell'Opera Metropolitana

ドゥッチオ・ディ・ブォニンセーニャ「最後の晩餐」



## 次回定期演奏会(2006年5月13日)演奏曲目の紹介

カンタータ第180番《装え心よ 罪の闇を去り》

„Schmücke dich, o liebe Seele“ BWV180

訳詞/解説:大村恵美子

### 【歌詞】

#### 1. 合唱

装(よそお)え 心よ  
罪の闇を 去り  
明るき 光なる  
主の 輝き 放て  
救い 恵み 満てる  
み空 統べたもう 主  
いま なれを 招き  
内に 宿りたもう

(Johann Franck 1653 第1節)

#### 2. アリア (テノール)

目覚めよ なが 主は 扉を たたく  
開け いまこそ 心の 戸を  
喜びに 満たされ  
なが イエスに 献ぐべき  
言葉 なさずとも

#### 3. レチタティーヴォとコラール (ソプラノ)

いかに 貴き 主の み糧(かて)  
たぐいなき 宝  
世に あるは  
すべて  
値(あたい)なき もの  
み民は 希(ねが)い求めて  
言う:

(アリオーゾ)

ああ わが心 いかに  
み慈しみを 慕(しと)うや  
ああ 涙と ともに  
いのちの 糧 求む  
ああ われ 飢え 渴く  
主の 恵み あこがれ  
変わらぬ 願いは  
主と 一つなる いのち

(同上 第4節)

#### 4. レチタティーヴォ (アルト)

恐れと 喜びと  
わが うちに あり  
主の 高きを知り  
その 不思議を 探りえず  
みわざを 測りえぬ 恐れ  
ただ み言葉に 学びて  
心は 信仰により  
養わるるを知る  
喜びは 強めらる  
救い主の 愛  
大いなるを 悟りて

#### 5. アリア (ソプラノ)

いのちの 太陽  
わが すべてなる 主  
わが まこと 認めて  
弱き 信仰すらも  
卑しめざらん

#### 6. レチタティーヴォ (バス)

主 なが まことの 愛  
天(あめ)より 降りし 愛  
われにも 賜え  
わが 魂(たま)に 火を ともし  
ひたすら 天(あめ)なる 道  
辿りて  
なが 愛に 留まらしめたまえ

#### 7. コラール

いのちの 糧なる  
主 イエスの 集いに  
心を ただして  
与(あずか)らしめたまえ  
ともに はべりつつ  
なが 愛 味わい  
天(あめ)にても われを  
招き入れたまえ

(同上 第7節)

### 【解説】

初演:1724年10月22日(三位一体節後第20日曜日),  
ライプツィヒ。

歌詞作者は不詳。基本コラール:ヨハン・フランク作,  
当カンタータと同名(直訳「装いせよ,おお わが魂よ」  
Johann Franck „Schmücke dich, o liebe Seele“ 1653)。定旋  
律:ヨハン・クリューガー(Johann Crüger,1649)。第1曲  
(第1節),第3曲アリオーゾ部分(第4節),第7曲(第  
7節),その他の歌詞も同コラールの他節よりパラフレーズ。  
『讃美歌21』に収載(75番)。

三位一体節後第20日曜日の聖句は,エペソ書5:15-21  
とマタイ22:1-14。この日のためのカンタータは,BWV162  
《われ見たり 婚礼に出ずる今》(1715年初演)や,BWV49  
《われ行きて なれを求む》(1726年初演)とともに,マタイ福音書の,この主の「婚宴の譬え」を主題として構想されたものばかりである。

なかでもこのBWV180は,主の婚宴を教会における聖餐式  
としてとらえ,教訓とか戒めなどの翳りやおそれのほとんど  
感じられない,どちらかというと平明な,一般向きとも  
いえるような感性によって貫かれた「晴れ」の日の音楽と  
なっている。熱烈な愛好者の多いゆえんでもあろう。

楽器も,リコーダー,フルート,オーボエ等,やわらかく  
明るい音色のものがつぎつぎと登場して,耳を,いやが  
うえにも楽しませてくれる。第1曲がジーク,第2曲が  
ブーレ,第5曲がポロネーズの舞曲のリズムを思わせるの  
も,このカンタータの感覚的な愉悦の根源に寄与していよ  
う。

## 1. 合唱

管楽器のあまい響き、8分の12拍子の平和で整然たる足取りの前奏から、清楚な魂のよそおいを促すコラール第1節の合唱。神の招きをうける者の喜びと陶酔にみちあふれる。ここで魂を装飾するという点について、マタイ22:11-14の「婚宴に礼服をつけないで行った客」が、追いつけられなかった譬え話を思い出す。「礼服」とは神を受け入れる「信仰」のことなのである。ふさわしくない思い上がった心で神の前に出ることはできない。「しみなく、しわのない」心が要求される。

## 2. アリア (テノール)

心の扉をたたくイエスの描写は、バッハのカンタータのなかに印象深くなんどこが現れるが、このアリアでは、それらの神秘的で、インパクトの強い表現とはがらりとうってかわって、独奏フルートとテノールによる、軽くりズミカルで浮き立つような歓喜の愛らしい音楽である。

## 3. レチタティーヴォとコラール (ソプラノ)

導入的なレチタティーヴォのあとに、コラール第4節がヴィオロンチェロ・ピッコロのオブリガートをともなって歌われ(アリオゾ)、2.と同じような通奏低音の音型ながら、この曲では、対照的なレガートの動きで、深い内面の願望を表現する。

## 4. レチタティーヴォ (アルト)

リコーダー2本をともなった、念入りな信仰の心の動きの描写を、アルトが歌う。

## 5. アリア (ソプラノ)

全オーケストラのきびきびしたトゥッティをともなった、堂々たるいのちの太陽の讃歌。中間部における信仰の弱さの告白も、それを支えはげます神へのゆるがぬ信頼に支えられて、またふたたび力強いダ・カーボへと流れこむ。

## 6. レチタティーヴォ (バス)

飾り気のないセッコ・レチタティーヴォだが、深みのあるバスの説得によって、神の愛との一体化を至上の幸福とする信仰が浮き彫りとなる。

## 7. コラール

冒頭の、第1節をもちいた絢爛たるコラール合唱と、この最終節(第7節)による端正な締めくくりとの、みごとな粋組みによって、このカンタータは、バッハの1724年作のコラール・カンタータの白眉として躊躇なくあげられるものである。

(第79回定期演奏会プログラム(1996年)に加筆)

## [CD] 日本語演奏によるバッハ・カンタータ 50 曲選

### 第 期(全4巻)

2006年3月末、同時発売予定

## 第 期(全4巻)をお届けします

冒頭の「大地の糧のカンタータ」(本号1頁)でも触れられましたように、CDシリーズの録音も大詰めをむかえました。

今回発行の第 期では、50曲選の楽譜を使った演奏の音源から5曲(表1の\*印)、BWV140は2001年、BWV72は2004年、BWV129,137,147は2005年録音。過去の会場録音から5曲(表2の\*\*印)、BWV68は1991年、BWV71は1987年、

BWV124は1998年、BWV131は1979年(当CDシリーズ中のもっとも古い録音です)、BWV150は1997年、という内容でした。4半世紀の時代の差を聴き比べるのも、一つの興味となりましょう。

## 第 期、全10曲の内容を紹介します

[第9巻] BACHCD 09

カンタータ第68番「み神はこの世をかく愛したまえり」  
「その独り子を賜うほどに…」と冒頭合唱がせつせつと歌う聖霊降臨節の名曲。

カンタータ第71番「主はわが君」旧約の断片をつなぐ手法に、成長途上のバッハの感性が横溢。生前に印刷譜となった唯一のカンタータ。

カンタータ第72番「みなすべてみ心のままに」合唱曲、独唱曲ともに成熟した技法を駆使して、キリスト教信仰の深奥を印象深く訴える。

[第15巻] BACHCD 15

カンタータ第124番「イエス共にあらん」死に瀕した者の、イエスへの希望と憧れをうたうが、背景には少年イエスの宮詣での記事がある。

カンタータ第129番「ほめ讃えよ主を」バッハの代表的な神讃美の佳品。冒頭曲の有名な定旋律を、つづく各独唱アリアでも種々に展開。

カンタータ第131番「深みより主よわれはなれを呼ぶ」  
真摯さのみなざるバッハの最初期カンタータ。ルター訳詩編130篇による。

[第16巻] BACHCD 16

カンタータ第137番「ほめよ主を強き栄えの君を」讃美歌「ほめたたえよ、力強き主を」の元になった全節コラール・カンタータの典型。

カンタータ第140番「目覚めよと呼ばわるものみの声高し」フィリップ・ニコライの印象深いコラール旋律を基調にした名曲中の名曲。

[第17巻] BACHCD 17

カンタータ第147番「心と日々のわざもて」コラール「主よ人の望みの喜びよ」で名高い。これはバッハ作品中もっとも世に知られた旋律。

カンタータ第150番「なれを主よわれは仰ぐ」最初のカンタータか? 「口短調ミサ曲」にいたるバッハの宗教曲の歴史がここから始まる。

## 予約受付けを開始します

全4巻の発行は、本年3月末あたりを予定していますが、制作費準備のため、あらかじめ代金と共にご予約・申込みいただくと幸いです(各本体価格のみです。送料は当方で負担します)。

< 団内・関係者特別料金 >

第 期全4巻セット: 8,600円

各巻単価: 2,300円

< 予約の宛先 >

【郵便振替】口座番号: 00190-3-47604

加入者名: 東京バッハ合唱団 (電話 03-3290-5731)